

株式会社東京スタジアム

第1 監査の目的

地方自治法（昭和22年法律第67号）第199条第7項に基づき、都が出資等を行っている団体に対して、団体の事業が出資等の目的に沿って適切に運営されているか、監査を実施する。

第2 監査の対象

1 監査対象団体及び局

- (1) 監査対象団体 株式会社東京スタジアム
- (2) 監査対象局 オリンピック・パラリンピック準備局

2 事業の内容

(1) 事業の概要

株式会社東京スタジアム（以下「会社」という。）は、三鷹、府中、調布の3市にまたがる調布基地跡地における「武蔵野の森総合スポーツ施設」の中核的施設である競技場の建設及び管理運営等を目的として、平成6年8月に設立され、主に次の事業を行っている。

- ア 総合陸上競技場の建設及び管理運営
- イ 商業施設の運営及び管理
- ウ 各種施設の運営及び管理
- エ 施設内広告スペースの販売
- オ 各種イベントの企画及び開催

なお、施設の概要は、表1のとおりである。

(表1) 施設概要

施設	名称等	利用状況	規模
メイン スタジアム	味の素スタジアム		地上5階、地下1階 約86,000㎡
	スタンド	スタンド内広告スペースを貸付	上層：20,600席
			下層：29,370席
	天然芝フィールド	プロサッカー等の競技に使用 芝養生パネルを利用してコンサート等に使用	約7,600㎡
	人工芝フィールド	フットサルコート8面 トラック400m×9レーン イベント、サッカースクール等に使用	約12,600㎡
会議室・ホール	会議・パーティーなど	会議室5室ほか	
セカンド フィールド	アミノバイタルフィールド	アメリカンフットボール等に使用 スタンド内広告スペースを貸付	観客席：3,060席
			人工芝：約9,000㎡
			野芝：約7,887㎡
西競技場	味の素スタジアム西競技場	陸上競技、サッカー等に使用	観客席：約800席
			競技場：約19,000㎡
商業施設	ポケットガーデン	飲食店4店（うち2店はイベント開催時のみ営業）、その他1店	延べ床面積約1,369㎡
	ユーロスポーツ	スポーツ用品店	延べ床面積約526㎡
スポーツ 施設	ミズノフットサルプラザ 味の素スタジアム	屋内フットサルコート2面 業務委託により運営	地上3階 延べ床面積約2,347㎡
	ミズノフットサルプラザ 調布	屋外フットサルコート3面 業務委託により運営	人工芝：約2,551㎡
駐車場	本体下駐車場		約400台
	北側駐車場	月極利用団体あり	約440台
広場	北側広場 （「ブレンディ」広場）	イベントへ貸付 臨時バス発着所や大型車両転回場所	約7,000㎡
	南側広場 （「アジパンダ」広場）	イベントへ貸付	約6,000㎡

(2) 都との関係

都は、会社に対し、資本金96億5,250万円のうち35億円(36.3%)を出資している。また、平成12年に、スタジアム本体及び付帯商業施設を307億円で会社から取得し、45年間の施設利用権44億4,838万余円で、これらの施設等を会社は無償で貸し付けている。

さらに、都は、開業後に会社が整備した商業施設(名称:ユーロスポーツ)及びスポーツ施設(名称:ミズノフットサルプラザ味の素スタジアム)については、寄付を受けた上で会社への無償貸付対象に追加している。また、都は、平成24年度に西競技場を、平成25年度に北側駐車場を整備し、会社は無償で貸付けている。

なお、平成25年度は、味の素スタジアムで「スポーツ祭東京2013(第68回国民体育大会本大会:平成25.9.28~平成25.10.8、第13回全国障害者スポーツ大会:平成25.10.12~平成25.10.14)の開・閉会式や陸上競技、サッカーなど各種競技が行われた。

3 組織

会社は、事務所を調布市西町376番地3に置き、役員12名(代表取締役社長1名、取締役8名、監査役3名)(うち非常勤役員10名)及び職員17名(うち都派遣職員7名)で、1部2課をもって構成されている。

第3 監査の範囲及び実地監査期間

1 監査の範囲

第19期(平成24.4.1~平成25.3.31)及び第20期(平成25.4.1~平成26.3.31)の事業について実施した。

2 実地監査期間

(1) オリンピック・パラリンピック準備局 平成26年9月16日及び同月25日

(2) 会 社 平成26年9月17日から同月24日まで

第4 監査の結果

1 経営に関する事項

事業実績について見ると第20期におけるイベント開催回数は、787回であり、第19期(828回)と比較して、41回(5.0%)減少しており、入場者数は、136万6,644人であり、第19期(131万6,102人)と比較して、5万542人(3.8%)増加している。また、売上高は、12億3,866万余円であり、第19期(11億2,374万余円)と比較して、1億1,492万余円(10.2%)増加している。

第20期における経営成績は、営業利益6,839万余円、経常利益1億4,288万余円、当期純利益は、8,284万余円となっており、第19期(6,152万余円)と比べ

て2, 131万余円(34.6%)増加している。

第20期における財政状態は、資産合計94億6,187万余円、負債合計3億5,082万余円、純資産合計91億1,104万余円となっている。

次に、経営環境について見ると、ネーミングライツ(命名権)契約の更新により安定的な収入が見込まれるものの、会社の経営状況は、公益社団法人日本プロサッカーリーグ(以下「Jリーグ」という。)の観客動員数や大型コンサートの開催回数に影響を受けるという課題を抱えていることから、経営基盤を安定化させるには、ネーミングライツ契約以外に安定した収入を確保することが課題となっている。また、2020年東京オリンピックの競技会場として、大会の円滑な実施に向けて適切な対応をとる必要がある。

会社は、引き続きJリーグをはじめとするスポーツイベントや大型コンサートなど収益性の高いイベントを誘致するとともに、顧客の新たなニーズを調査・把握し、新規イベントの誘致や開発等に力を入れるなど、味の素スタジアムの魅力をより一層高めていくよう経営努力を行う必要がある。

以上、経営状況について述べてきたが、会社の事業は、別項指摘事項を除き、出資の目的に沿って適切に経営されていると認められる。

2 指摘事項

(1) 財産管理に関する事務を適正に行うべきもの

株式会社東京スタジアム(以下「会社」という。)は、東京都(以下「都」という。)が整備した道路案内標識(以下「標識」という。)について、協定を結び、維持管理を行っている。

ところで、会社において維持管理を行っている標識の現況について見たところ、下記のとおり、不適正な点が認められた。

ア 会社の固定資産台帳(以下「台帳」という。)を確認したところ、平成23年度に会社が修繕工事を行った標識2か所について、都の所有であるにもかかわらず、新たな固定資産とし、台帳に登載していた。その結果、器具備品が過大計上(42万円)となっている。

会社は、財産に関する事務を適正に行われたい。

(株式会社東京スタジアム)

イ 協定書に記載されたもの以外の都所有の標識が3か所確認された。都は、標識の維持管理を適正に行うために、会社と協定を取り交わす必要がある。

局は、財産に関する事務を適正に行われたい。

(オリンピック・パラリンピック準備局)

(2) 公有財産の確認を行い台帳の登録を適正に行うべきもの

株式会社東京スタジアム（以下「会社」という。）は、味の素スタジアム（以下「スタジアム」という。）を運営するに当たり、東京都と建物及び工作物無償貸付契約書（以下「貸付契約書」という。）を取り交わし、建物等の引き渡しを受けている。

ところで、スタジアムにおいて、工作物である屋外用監視カメラについて見たところ、16台のカメラが確認できた。

しかしながら、局の公有財産台帳には、平成13年に取得した屋外用監視カメラ14台が記載されているのみであった。また、局は、監査日現在、工作物である屋外用監視カメラの総台数を把握していなかった。

東京都公有財産台帳等処理要綱（昭和60年4月1日付59財管総第243号）によれば、台帳に記載する内容に数量等の増減や事項の補正等の必要が生じた場合は、速やかに財産情報システムを用いて当該内容の増減登録や事項修正登録を行うこととなっているにもかかわらず、これを行っていないのは適正でない。

当該施設は、平成23年4月1日に都市整備局からオリンピック・パラリンピック準備局（当時スポーツ振興局）に所管換えを受けているが、引継ぎ財産の内容確認が十分でないと考えられる。

局は、公有財産の確認を行い台帳の登録を適正に行われたい。

（オリンピック・パラリンピック準備局）

第5 経営状況の概要

1 経営状況

(1) 事業実績

会社は、主に総合陸上競技場の管理運営や各種イベントを開催するとともに、スタジアム内の広告看板の販売、各種施設の運営等を行っている。

会社が管理する施設の概要は表1、施設利用に係る事業実績は表2のとおりである。

施設のうちメインスタジアムは、Jリーグに参加しているFC東京（東京フットボールクラブ（株））及び東京ヴェルディ（東京ヴェルディ1969フットボールクラブ（株））のホームスタジアムとして利用されている。

なお、味の素株式会社に対するネーミングライツ契約を平成26年3月に更新し（契約期間：5年間、契約金額：10億円）、平成31年2月まで、メインスタジアムを「味の素スタジアム（AJINOMOTO® STADIUM）」、セカンドフィールドを「アミノバイタル®フィールド」と命名している。また、北側広場に「ブレンディ広場」、南側広場に「アジパンダ広場」という愛称を設定している。

(表2) 施設事業実績(メインスタジアム、セカンドフィールド及び西競技場)

(単位:日、百万円、千人)

区 分	第20期			第19期			増(△)減		
	開催回数	収入	入場者数	開催回数	収入	入場者数	開催回数	収入	入場者数
スポーツ	710	885	1,167	731	638	903	△ 21	247	264
Jリーグ	31	154	461	32	159	461	△ 1	△ 5	0
その他	679	731	706	699	479	442	△ 20	252	264
商業イベント	77	85	200	97	201	413	△ 20	△ 116	△ 213
コンサート	2	58	110	6	180	316	△ 4	△ 122	△ 206
その他	75	27	90	91	21	97	△ 16	6	△ 7
計	787	970	1,366	828	839	1,316	△ 41	131	50

(2) 経営成績

ア 損益計算書項目の比較増減分析

第19期及び第20期の経営成績は、別表1比較損益計算書のとおりである。

第20期における経営成績は、営業利益が6,839万余円、経常利益が1億4,288万余円であり、当期純利益は、8,284万余円となっている。

売上高は、12億3,866万余円であり、第19期(11億2,374万余円)と比較して1億1,492万余円(10.2%)増加している。これは主に、スポーツ祭東京2013の開催に伴い施設利用売上が増加したことなどによるものである。

売上原価は、9億5,345万余円であり、第19期(8億2,436万余円)と比較して1億2,909万余円(15.7%)増加している。これは主に、コンサート誘致に係る業務委託費等が減少したものの、スポーツ祭東京2013に向けた施設整備のための修繕等により、修繕費が増加したことなどによるものである。

この結果、経常利益は、1億4,288万余円であり、第19期(9,953万余円)と比較して4,335万余円(43.6%)増加している。

イ 経営比率等による経営成績の分析

会社の収益性・効率性を示す経営比率は、表3のとおりである。

(表3) 経営比率

項目 \ 期	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期	算式
総資本事業利益率 (%)	1.6	1.3	1.3	1.0	1.0	$\frac{\text{事業利益}}{\text{総資本}}$
営業収益営業利益率 (%)	11.7	9.7	9.5	6.5	5.5	$\frac{\text{営業利益}}{\text{営業収益}}$
総資本回転率 (回)	0.11	0.12	0.11	0.12	0.13	$\frac{\text{営業収益}}{\text{総資本}}$
総費用対総収益比率 (%)	87.3	88.7	88.6	91.7	89.2	$\frac{\text{総費用}}{\text{総収益}}$

(注) 事業利益＝営業利益＋受取利息

(3) 財政状態

ア 貸借対照表項目の比較増減分析

第19期及び第20期の財政状態は、別表2比較貸借対照表のとおりである。

第20期の財政状態について見ると、資産合計94億6,187万余円、負債合計3億5,082万余円、純資産合計91億1,104万余円となっている。

資産合計は、第19期(93億171万余円)と比較して1億6,015万余円(1.7%)増加している。これは、主に、無形固定資産の減価償却により、固定資産が9,611万余円減少したものの、現金預金が増加したことにより、流動資産が2億5,627万余円増加したことなどによるものである。

負債合計は、第19期(2億7,350万余円)と比較して7,731万余円(28.3%)増加している。これは、主に、営業未払金や未払法人税等の流動負債が7,961万余円増加したことなどによるものである。

純資産合計は、第19期(90億2,820万余円)と比較して、8,284万余円(0.9%)増加している。これは、別表3の株主資本等変動計算書のとおり、当期純利益が生じたことにより、利益剰余金が増加したことによるものである。

イ 財務比率等による財政状態の分析

財務比率は、表4のとおりである。

(表4) 財務比率

(単位：%)

項目 \ 期	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期	算式
流動比率	2,461.4	1,916.5	1,206.7	1,280.0	1,013.0	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$
自己資本比率	97.4	97.1	96.8	97.1	96.3	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}$
固定長期適合比率	55.6	59.2	71.6	73.3	71.6	$\frac{\text{固定資産}}{\text{長期資本}}$

(注) 長期資本=資本+剰余金+固定負債

(4) 経営環境に関する評価

経営環境について、営業活動、財務活動等の観点から確認を行った結果、事業環境及び事業運営について、次のとおり留意すべき点が見受けられた。

ア 経営環境及び事業運営について

ネーミングライツ契約の更新により平成31年2月までは安定した収入源を有するが、そのほかの収入について見てみると、メインスタジアムにおけるJリーグの観客動員数や大型コンサートの開催回数という流動的な要因に影響を受けること、天然芝の状態を良好に維持するために利用日数に制約があることなどから、経営基盤を安定化させるには、ネーミングライツ契約以外に安定した収入を確保することが課題となっている。

また、2020年東京オリンピックの競技会場として、大会の円滑な実施に向けて適切な対応が求められる。

今後も、Jリーグをはじめとするスポーツイベントや大型コンサートなど収益性の高いイベントの誘致をするとともに、新たな顧客のニーズを調査・把握し、新規イベントの誘致や開発にも力を入れるなど、味の素スタジアムの存在感や魅力をより一層高めていくよう経営努力を行う必要がある。

(別表1)比較損益計算書

(単位:円、%)

科目	第20期	第19期	増(△)減	
	(平成25.4.1～平成26.3.31)	(平成24.4.1～平成25.3.31)	金額	率
	金額 (A)	金額 (B)	金額 (C=A-B)	率 (C/B×100)
営業収益	1,238,667,937	1,123,746,791	114,921,146	10.2
売上高	1,238,667,937	1,123,746,791	114,921,146	10.2
営業費用	1,170,269,362	1,050,474,253	119,795,109	11.4
売上原価	953,458,538	824,367,509	129,091,029	15.7
販売費及び一般管理費	216,810,824	226,106,744	△ 9,295,920	△ 4.1
営業利益	68,398,575	73,272,538	△ 4,873,963	△ 6.7
営業外収益	74,585,707	27,210,438	47,375,269	174.1
受取利息	24,116,917	22,934,589	1,182,328	5.2
受取補償金	45,000,000	0	45,000,000	—
雑収入	5,468,790	4,275,849	1,192,941	27.9
営業外費用	94,907	943,610	△ 848,703	△ 89.9
雑損失	94,907	943,610	△ 848,703	△ 89.9
経常利益	142,889,375	99,539,366	43,350,009	43.6
特別利益	4,438,140	46,778,957	△ 42,340,817	△ 90.5
固定資産利用権受贈益	4,438,140	46,778,957	△ 42,340,817	△ 90.5
特別損失	4,438,141	46,778,957	△ 42,340,816	△ 90.5
固定資産除却損	1	0	1	—
寄付金	4,438,140	46,778,957	△ 42,340,817	△ 90.5
総収益	1,317,691,784	1,197,736,186	119,955,598	10.0
総費用	1,174,802,410	1,098,196,820	76,605,590	7.0
税引前当期純利益	142,889,374	99,539,366	43,350,008	43.6
法人税、住民税及び事業税	60,047,885	38,009,713	22,038,172	58.0
当期純利益	82,841,489	61,529,653	21,311,836	34.6

(別表2) 比較貸借対照表

(単位:円、%)

科目	第20期	第19期	増(△)減	
	(平成25.4.1～平成26.3.31)	(平成24.4.1～平成25.3.31)	金額	率
	金額 (A)	金額 (B)	(C=A-B)	(C/B×100)
流動資産	2,894,518,390	2,638,245,417	256,272,973	9.7
現金及び預金	2,382,071,023	1,626,533,813	755,537,210	46.5
売掛金	88,341,923	87,316,256	1,025,667	1.2
有価証券	399,860,000	900,000,000	△ 500,140,000	△ 55.6
前払費用	14,266,765	14,086,093	180,672	1.3
未収入金	3,054,901	2,470,716	584,185	23.6
その他	6,923,778	7,838,539	△ 914,761	△ 11.7
固定資産	6,567,355,433	6,663,472,603	△ 96,117,170	△ 1.4
有形固定資産	401,793,036	417,343,799	△ 15,550,763	△ 3.7
建物	104,374,743	114,682,443	△ 10,307,700	△ 9.0
構築物	247,142,564	257,996,461	△ 10,853,897	△ 4.2
機械装置	7,554,523	8,845,709	△ 1,291,186	△ 14.6
車両運搬具	1,722,977	1,631,197	91,780	5.6
器具備品	40,998,229	34,187,989	6,810,240	19.9
無形固定資産	3,139,464,796	3,238,723,352	△ 99,258,556	△ 3.1
ソフトウェア	371,737	777,271	△ 405,534	△ 52.2
電話加入権	509,600	509,600	0	0
施設利用権	3,138,583,459	3,237,436,481	△ 98,853,022	△ 3.1
投資その他の資産	3,026,097,601	3,007,405,452	18,692,149	0.6
投資有価証券	2,548,113,726	2,498,191,289	49,922,437	2.0
長期前払費用	276,032,875	306,686,163	△ 30,653,288	△ 10.0
その他	203,262,055	202,528,000	734,055	0.4
貸倒引当金	△ 1,311,055	0	△ 1,311,055	—
資産合計	9,461,873,823	9,301,718,020	160,155,803	1.7
流動負債	285,723,897	206,109,583	79,614,314	38.6
営業未払金	193,623,412	146,238,956	47,384,456	32.4
未払金	19,415,669	18,116,079	1,299,590	7.2
未払費用	11,854,104	11,610,041	244,063	2.1
未払法人税等	50,435,200	21,455,200	28,980,000	135.1
未払消費税等	6,079,595	4,197,185	1,882,410	44.8
預り金	348,526	947,182	△ 598,656	△ 63.2
その他	3,967,391	3,544,940	422,451	11.9
固定負債	65,100,000	67,400,000	△ 2,300,000	△ 3.4
預り保証金	65,100,000	67,400,000	△ 2,300,000	△ 3.4
負債合計	350,823,897	273,509,583	77,314,314	28.3
資本金	9,652,500,000	9,652,500,000	0	0
利益剰余金	△ 541,450,074	△ 624,291,563	82,841,489	△ 13.3
その他利益剰余金	△ 541,450,074	△ 624,291,563	82,841,489	△ 13.3
繰越利益剰余金	△ 541,450,074	△ 624,291,563	82,841,489	△ 13.3
純資産合計	9,111,049,926	9,028,208,437	82,841,489	0.9
負債及び純資産合計	9,461,873,823	9,301,718,020	160,155,803	1.7

(注) 有形固定資産の減価償却累計額：第20期341,382,513円、第19期310,139,287円

(別表3)株主資本等変動計算書 (第20期:平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

(単位:円)

項目	株主資本				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本計	
		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
前期末残高	9,652,500,000	△ 624,291,563	△ 624,291,563	9,028,208,437	9,028,208,437
当期変動額					
当期純利益		82,841,489	82,841,489	82,841,489	82,841,489
当期変動額合計	-	82,841,489	82,841,489	82,841,489	82,841,489
当期末残高	9,652,500,000	△ 541,450,074	△ 541,450,074	9,111,049,926	9,111,049,926